

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人須賀学園 杉の子育英幼稚園

1.本園の教育目標

杉の子育英幼稚園では、笑うこと、考えること、感動すること、我慢することの4点に力を入れて幼児活動を行い、明るい未来を作る一員となるための基礎を育てる未来教育を行う。

2. 本年度の指導の重点

コロナ禍における教育活動の継続と発展を図り、未来教育に基づいて豊かな心と身体を育てる。

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
1 教育目標に沿った教育課程、指導計画の作成、実践を図ります。また、専門講師による礼儀作法指導を通して、集団生活を楽しめる幼児を育てる。	4.3	コロナにおける制限がある中、指導計画や活動内容に工夫を凝らし教育活動を進めることができました。また、専門の講師による礼儀作法指導についても、幼児が興味を持って積極的に取り組みました。
2 地震、津波、火災、防犯、事故等安全管理に対する訓練、マニュアルを整備します	4.4	消防(火災、AED)、警察(不審者対応)と連携しての訓練、計画に基づいた毎月の訓練は次年度も継続して取り組みます。防災マニュアルの再構築が必要と思われます。
3 園内外の研修を通して教職員の資質向上に努めます	4.1	園外研修の参加と報告書作成、園内での研修に活用するなど幼児理解に努めました。教育活動への反映、活用はさらに努力が必要です。
4 家庭との連携、協力、相互理解を通して教育内容への反映を図ります	4.3	アプリを活用しての、コロナの状況に合わせた教育活動の実施、活動内容のお知らせや感染症の状況報告を行いました。
5 預かり保育の実施内容、教育内容の充実を図ります	4.1	早朝保育の預かり開始、長期休み期間中の実施の日数の増加を行いました。保育内容の見直しと教材を充実させました。

評価(5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:改善を要する)

4.総合的な評価結果

評価	理由
4.2	専門講師による礼儀作法指導は幼児の人間関係を円滑にする能力の向上に役立ちました。今年度もコロナ禍における制限はありましたが、教育活動を停滞させないために園全体で感染対策や工夫をしながら保育を行うことができました。特に行事は、季節感を大切に楽しみや学びを感じられるような内容のものを多く取り入れて参りました。その中で子ども同士の関わりが深まると同時に、自分の思いを友だちに伝えたり相手を思いやる姿が見られました。それらが子ども達の豊かな心や育ちにつながり、未来教育の実践へと変わったものと思われます。

評価(5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:改善を要する)

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
3 研修(資質向上の取り組み)	園外研修を中心に活用しながら、園内での職員の研修、研究会の充実を図って参ります。各職員の課題と実践内容を明確にし、教育活動に反映できるよう取り組みます。
5 預かり保育	これまで以上の預かり保育へのニーズの高まりを受け、預かり時間の見直しを行います。縦割り保育のメリットを生かし、保育内容の充実を図るべくクラス担任との連携を充実させます。

6.学校関係者評価委員会の評価

今年度は、行事がコロナ前の規模に近づいただけでなく、季節の行事やパーティーが多く取り入れられ、日常の中にある非日常感が子ども達の生活に潤いをもたらしていたように思います。また、専門講師による礼儀作法指導の成果は保育参観や発表会での子どもの態度から感じることができました。先生方の子ども達への丁寧な関わりが、杉の子の子ども達の伸び伸びとした姿から感じられ高く評価できます。新型コロナなどの感染状況のこまめな連絡や対策が徹底されており、安心できるものでありました。